

和歌山電鐵の活性化に向けた取組み

○平成15年に南海電鉄が貴志川線の廃止検討を表明したが、存続に向けた住民の要請が高まり、関係者で議論した結果、沿線自治体が鉄道用地を買い取り、公募により決定した岡山電気軌道が和歌山電鐵を設立して運行を引き継ぐことで合意した。
 ○沿線住民等による支援と観光を中心とした取組みにより活性化を図っており、平成20年度創設の地域公共交通活性化・再生法に基づく総合事業を活用して様々な取組みを実施中。平成21年7月、地域の活性化へ著しい功績があったとして、国土交通大臣表彰を受賞。

車両のリニューアルによる活性化

○**貴志川特産の「いちご」**や**地域で成長著しい「おもちゃ」**をテーマに、つり革やベンチシート、家具等、今まであまり木を使わなかったところにむく材をふんだんに使用した**車面のリニューアルを実施**。
 ○「いちご」、「おもちゃ」に続き、**駅長の「たま」**をテーマに、地域公共交通活性化・再生総合事業を活用してリニューアルした**「たま電車」**を**21年3月より運行開始**。



<いちご電車> <おもちゃ電車> <たま電車>

出典：和歌山電鐵提供資料・ホームページ等をもとに鉄道局作成

話題性を高めることによる活性化

○貴志駅の猫の駅長「たま」が話題を呼び、観光客が殺到。その功績から、20年1月に「スーパー駅長」に昇進、10月に和歌山県知事から「ナイト(騎士)」の称号を授与。



<駅長の「たま」>

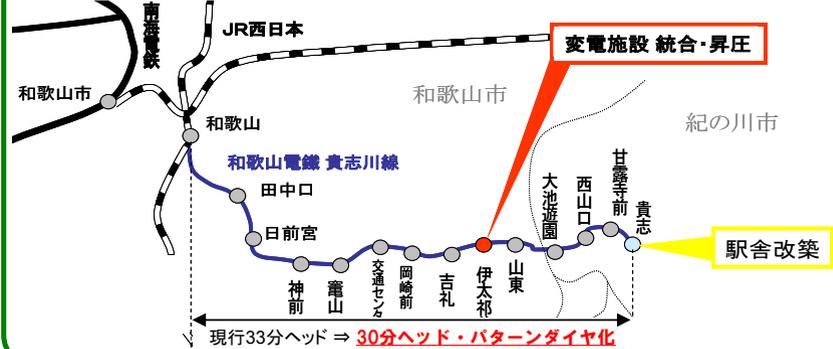


関西大学大学院の宮本勝浩教授によると、**就任1年間の経済波及効果を試算すると約11億円**になると発表。

出典：和歌山電鐵ホームページ、和歌山大学辻本勝久准教授提供資料等をもとに鉄道局作成

利便性の向上による活性化

○変電施設の増強により、速達性の向上を図り、また覚えやすく利用しやすいダイヤ設定を行うとともに、観光客の利用増のため手狭となった貴志駅を改良するなど利便性の向上により、駅を核とする地域の活性化及び快適性の向上を図る。
 (21年度コミュニティ・レール事業及び総合事業にて実施)



貴志川線の年間輸送人員の推移

